

中長期計画に対する自己評価（1ページ以内）

全体評価	S：当初の計画を超え、目標を上回る顕著な成果が得られている。 A：当初の計画を着実に実行してきており、目標に対し十分な成果が期待できる。 B：当初の計画をほぼ実行できているが、一部に遅延、未達等の取り組みがあり、目標の達成に継続した努力が求められる。 C：当初の計画について半数以上の取り組みについて未達であり、取り組みや目標に関して一定の見直しが必要である。 D：当初の計画を大幅に下回っており、目標の達成見込みがないため、計画に関する抜本的な見直しが必要である。
------	---

評価理由

平成29年10月20日に世田谷プラットフォーム（以下、世田谷PF）を発足して以降、中長期計画に基づき各取り組みが進められている。運営体制については、協議会や協議部会、各取り組みに対応する各部会、各ビジョンプロジェクト、共同事務局等が設置され、各組織の役割や評価体制なども整備されてきている。産業界の参画や、前年度に引き続き、令和元年度私立大学等改革総合支援事業（タイプ3）に採択されるなど、大きな成果を得ている一方で、中長期計画で達成できていない取り組みや十分に機能していない部会があるなどの課題も残っている。

令和元年度は、更なる国際化推進のため、新たに「国際部会」を設置したことと共に、各部会が期初に作成した年間計画を基に、着実に中長期計画の取り組みを進めてきた。また、9月に実施した初等中等教育関係者との協議においては、先行科目履修や学生ボランティア派遣の強化等、様々な可能性を議論しつつも、世田谷PFにおける中長期計画の整合性を確認できた。更に、学生イベント協力部会を設置することも決まり、更なる地域活性が期待される。

全体の推進体制としては、下記「評価に関する備考（考慮すべき事項）」に記載したとおり、区内産業界や自治体と共同の取り組みも進められており、大学、自治体、産業界の3者の連携がより強化なものになってきていると言える。また、世田谷PF参加校を増やすため、現在、世田谷区主催の調整連絡会議等において、他大学に世田谷PFの取り組み内容を説明し、参画を継続的に呼び掛けている。世田谷PFの活動を充実させるため、これらの取り組みは今後も継続していく予定であり、令和元年10月に開催した世田谷PF報告会では、区内大学にとどまらず、地域住民、大学関係者等が参加し、世田谷PFの活動を広く周知する機会となった。

その後、台風被害やコロナウィルス対応によるイベント中止や延期もあったが、概ね中長期計画の活動目標を達成することができた。また、一方で次年度以降の世田谷PFの拡大や持続的な活動を見据えた運営体制を構築するため「世田谷プラットフォーム規約」の整備に着手し検討を進めており、今後の世田谷PFのさらなる活動の展開も期待される。これらの状況を踏まえて、概ね良好な状態と判断し、評価はBとした。

評価に関する備考（考慮すべき事項）**■区内産業界との連携**

平成31年4月以降の区内産業界との連携状況として、令和元年9月に東急スポーツシステム株式会社、令和元年11月に東京商工会議所とそれぞれ包括連携の体制を構築した。これにより世田谷PFの参画企業は、東急株式会社（令和元年9月に商号変更）と合わせ4社となった。

令和元年9月に開催した世田谷PFキャリア部会主催「学生交流プログラム」では、区内産業界として東急株式会社、イツ・コミュニケーションズ株式会社より、それぞれ社員の派遣と共に、学生のグループ討議に参画していただいた。また、東急スポーツシステム株式会社は、世田谷PF中長期計画に掲げている乳幼児教育の取り組みをより強化することを目的の一つとして連携体制を構築しており、令和元年9月に同社協力のもと、地域の児童・保護者を対象とした運動教室を開催した。また、本取り組み開催に当たり、同社の提供プログラム、人員派遣料等、合計10万円以上を世田谷PFへの財政支援として無償提供いただいている。

令和元年12月には、新たに区内産業界として参画した東京商工会議所と連携し、世田谷PFキャリア部会主催「“新卒”口説ける採用面接官トレーニング講座【模擬面談・実践編】」を実施した。「模擬面談」の取り組みは、中小企業の人事担当者が面談の手法を学ぶために、学生達の協力を得ながら練習する取り組みであるが、学生達にとっても、企業の人事担当者の面談の手法を体験することが出来るので、非常に良い経験になった。

■事務局体制の整備

令和元年度より、東京都市大学、駒澤大学、東急株式会社で構成されていた共同事務局に、世田谷区が参画し、大学、自治体、産業界の3者による事務局体制を構築することができた。

■地方自治体との連携

世田谷PFは、世田谷区だけでなく、同区と交流のある地方の自治体（北海道中川町、北海道洞爺湖町、山形県舟形町、群馬県川場村、神奈川県川崎市、長野県、長野県豊丘村、新潟県十日町市等）との連携を掲げている。世田谷区主催の自治体間連携フォーラムに参画し、各自治体と交流を深め、イベント開催やインターンシップ等の実現を模索している。

達成目標・活動指標等（おおむね10頁以内）									
課題	達成目標	課題を解決する取組概要	活動指標			実績	評価・備考		
			上段数値：各大学が独自で実施している取組件数 下段数値：上記の内、世田谷PFとしての取組件数			以下、2019年度の実績及び評価			
ビジョンプロジェクト1（文化・芸術・教育） 担当：【国士舘】、【東京都市】									
1-1. 今後も人口増加・住民の多様化が予想される世田谷区において、幅広い年齢層や地域のニーズに合わせた教育の提供が求められているが、その機会が不足している	■ 大学の幅広い知財を地域住民に提供する機会を増やし、様々なニーズに合わせた教育を実施する	■ 高等教育の提供	■ 公開講座等提供件数（eラーニング含む）【件】					351件 (14)	A 特徴のある6つの大学で世田谷PFが形成されているため、広範囲の学術分野をカバーした取り組みが可能であり、数値目標を達成できている。
			2018	2019	2020	2021	2022		
			310件 (11)	315件 (12)	320件 (13)	330件 (14)	340件 (15)		
			■ eラーニング（せたがやeカレッジ含む）による公開講座提供件数					24件	A 「せたがやeカレッジ」というe-Learningシステムを保有しており、講座提供を行っている。また、数値目標を達成できている。
			2018	2019	2020	2021	2022		
			7件	8件	9件	10件	11件		
1-2. 大学がもつ高度で専門的な教育資源を活用し、小中学校等における教育活動の充実をはかる必要があるが、その連携が不十分である	■ 大学がもつ高度で専門的な教育資源の活用による、小中学校等における教育活動の充実	■ 区内小中学校等への教育活動支援	■ 教育支援活動を実施した小中学校数					25校	C 本取組は、2018年度末評価において「2016年度以前の数値を確認すると30校前後であり、過大な数値目標が設定されていることが想定されるため、数値目標を現実的な目標に見直す必要があると考えられる。」との評価を受けた。2019年度についても、数値目標を大きく下回り、達成できていない。
			2018	2019	2020	2021	2022		
			60校	62校	64校	66校	68校		
			■ 学生ボランティアによる区内小・中学校等への教育活動支援派遣者数（世田谷区「区立幼稚園、小・中学校等への教育活動支援事業」と連携）					81名	A 「世田谷区大学生ボランティアによる区内小・中学校等への教育活動支援」については、世田谷区教育委員会事務局に受け入れ体制が備わっている。また、数値目標を達成できている。
			2018	2019	2020	2021	2022		
			75名	75名	75名	75名	75名		

2019（令和元）年度 世田谷プラットフォーム評価報告書

1-3. 乳幼児期から文化・芸術にふれることは、想像力と創造性を育み、多様な価値観を受け入れることが期待される一方で、それらは限られた環境の子どもにしか提供されていない	■ 文化・芸術・教育に関わる機会の提供及び乳幼児の情操教育への寄与	■ 乳幼児及び保護者への支援の推進	■ 乳幼児及び保護者への支援活動並びにその啓発活動の実施件数	2018	2019	2020	2021	2022	16件 (4)	A 各大学、独自で進めている件数は多いものの、世田谷PFとしての取り組みは、子育てメッセ等にとどまっている。数値目標を達成する見込みがないため、世田谷PF協議会において、目標数値の修正を行った。その後の計画に関しては数値目標を達成しており、改善されている。
				10件 (10)	10件 (40→2)	10件 (40→3)	10件 (40→4)	10件 (40→6)		
1-4. 文化・芸術活動等は、障がい者が生きがいや社会参加に寄与するために必要であるが、その支援活動が不足している	■ 障がい者支援活動機会の充実	■ 障がい者支援の推進	■ 障がい者支援活動及びその啓発活動の実施件数	2018	2019	2020	2021	2022	4件 (0)	C 各大学、独自で進めている件数は多いものの、世田谷PFとしては、一部の取り組みにとどまっている。数値目標を達成する見込みがないため、世田谷PF協議会において、値の修正を行ったが、数値目標を達成できていない。
				13件 (43→2)	13件 (43→2)	13件 (43→3)	13件 (43→4)	13件 (43→6)		

ビジョンプロジェクト2（地域活性） 担当：【国士館】、【駒澤】

2-1. 近隣同士の付き合いや地域での繋がりが希薄になっているため、地域振興や交流イベントの機会が求められている	■ 地域課題の解決や地域振興に向けた支援体制を構築し、「安心安全に暮らし、学び、遊べる街世田谷」の実現	■ 地域振興・交流イベントの推進	■ イベントの開催・協力件数	2018	2019	2020	2021	2022	138件 (20)	AB 各大学において、地域振興・交流イベントの推進に努め、数値目標を達成している。また、2019年度も山形県舟形市で開催された第5回自治体間連携フォーラムに参加するなど、継続的に活動を推進しており、地方自治体との連携も深まりつつあることは評価できる。
				85件 (10)	90件 (12)	95件 (14)	100件 (16)	105件 (18)		
2-2. 防災教育や指導等が区内に滞在する人々に対して十分な準備が整えられていない	■ 同上	■ 防災教育の推進	■ 防災教育の参加者数	2018	2019	2020	2021	2022	14,014名	C 各大学において、防災教育の取り組みを推進しているが、2019年度は台風19号の影響により、防災教育を実施できない大学もあったため、数値目標を達成することができなかった。
				14000名 (4010)	15000名 (4020) →17500名	16000名 (4030) →17500名	17000名 (4040) →17500名	18000名 (4050) →17500名		

ビジョンプロジェクト3（産業） 担当：【成城】、【東京都市】

3-1. 世田谷区内の産業界に従事する若年層が多くないため、高齢化社会に向けての人材確保ができていない	■ 産学官の連携体制を構築し、区内における就労及び新たな商品開発や起業の促進をはかることにより、区内産業を活性化	■ 企業との連携推進	■ 区内産業界へのインターンシップ参加者数					105名	B 部会を中心に着実に進められているが、数値目標を達成することができなかった。
			2018	2019	2020	2021	2022		
			150名	160名	170名	180名	190名	194名	A 部会を中心に着実に進められており、数値目標を達成することができている。
			■ 区内への就業者数						
2018	2019	2020	2021	2022	140名	150名	160名	170名	180名
3-2. 区内産業を活性化するための教育プログラム（リカレント教育）が提供されていない	■ 同上	■ 企業との連携推進	■ 社会人向け教育プログラム数					31件	C 各大学、独自で進めている件数は多いものの、世田谷PFとしての取り組みは実現できていない。
			2018	2019	2020	2021	2022		
			検討	試行			実施		
3-3. 区内産業界を活性化するための、区内産業界等との連携体制が十分でない	■ 同上	■ 企業との連携推進	■ 産業イベント開催・協力件数					10件	A 本項目は、2018年度の評価報告書において、活動指標に加えるべきとの指摘を受けて設けられている。数値目標を達成し、着実に進められている。
			2018	2019	2020	2021	2022		
			—	7件	10件	12件	14件		
3-4. 世田谷区は、兼業・副業や職住近接の働き方改革モデル地域として、また、多様な地域的課題を解決するコミュニティ・ビジネスの叢生モデル地域として期待されているが、地域住民や地元学生などに起業に関心のない「創業無関心者」が依然として多いため、地域ぐるみで創業機運を醸成する必要がある	■ 同上	■ 地域の「創業無関心者」層に、起業に関心を持ってもらうための啓発普及活動を展開	■ 創業機運醸成のためのイベント等開催数					8件	A 2019年度より新規取り組みとして追加している。数値目標を達成し、着実に進められている。
			2018	2019	2020	2021	2022		
			—	3件	3件	3件	3件		

ビジョンプロジェクト4（国際化） 担当：【成城】、【東京都市】

4-1. 東京オリンピック・パラリンピックに向けてアメリカのホストタウンとして区内での国際化対応を推進する必要がある	■ 東京オリンピック・パラリンピックとその後に向けた区内での国際化対応による世田谷の魅力度の向上	■ 国際感覚の醸成	■ 国際化推進イベント参画・協力件数					28 (5)	B c 本取り組みは、2018年度末評価において「数値目標との乖離が大きい」と、取り組み内容及び数値目標の見直しが必要である。また、他のビジョンとは異
			2018	2019	2020	2021	2022		
			43件 (43)	44件 (44→4)	45件 (45→4)	46件 (46→4)	47件 (47→4)		

										なり、実働を行う部会が設置されていないため、活動が進んでいないと考えられる。」との評価を受けて、中長期計画の数値目標の変更を行った。各大学の数値目標は達成できていないが、世田谷 PF の取り組み件数は達成できている。
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

ビジョンプロジェクト5（大学等の連携） 担当：【駒澤】、【東京都市】

5-1. 個別の大学の取組のみでなく、各大学のFD・SD活動を共有あるいは共同開催することで、効率的な教育改革あるいは大学改革を推進する必要がある	■ 教育力の向上並びにスタッフ能力の開発により、世田谷区内大学の価値を高める	■ PF形成校（大学・高専）の連携強化	■ 共同FD・SD開催件数					4件	A 数値目標は達成され、部会を中心に着実に進められている。
			2018	2019	2020	2021	2022		
			2件	2件	2件	2件	6件		
5-2. 自大学に無い科目の提供や環境の異なる大学で学ぶことにより、学生の学修意欲を高める必要がある	■ 世田谷PF内で単位互換を活用しやすい仕組みを構築するとともに単位互換科目数の増加する		■ 共同の単位互換科目数					263科目	A 数値目標は達成しているものの、現状は、一部の大学のみで実施しているため、6大学に広がるよう今後の充実が望まれる。
			2018	2019	2020	2021	2022		
			検討	試行→ 248科目	実施→ 248科目	実施→ 248科目	実施→ 248科目		
5-3. 各大学が保有する施設・設備の共同利用を推進することにより、世田谷PFの活性化並びに大学間の教育研究等の連携強化を図る必要がある	■ 各大学が保有する施設・設備の共同利用を推進する		■ 共同利用が可能な施設・設備登録数					635件	A 本取り組みは2018年度末評価における「当初の数値目標を大幅に超えた取り組みとなっているため、再検討が必要である。」との評価結果を受けて、中長期計画の数値目標の変更を行った。また、東京都市大学の研究施設の名称変更及び研究機器の追加、成城大学のラウンジナンバー8の追加を反映した。
			2018	2019	2020	2021	2022		
			8件	12→ 608件	14→ 608件	16→ 608件	18→ 608件		
5-4. 世田谷区内にある13大学の内、現在参画しているのは6大学であり、区内外の参加校数を増やし、より世田谷PFを充実する必要がある	■ 区内外への参加を呼びかけ、参加校を増やし、世田谷PFの効果を高める		■ 参加校（大学・高専）数					6校	C 構成大学が6大学にとどまっておらず、数値目標を達成できていない。参画する大学を増やす取り組みや入会しやすい仕組み作りが必要である。
			2018	2019	2020	2021	2022		
			8校	9校	10校	11校	13校		
5-5. 世田谷PF形成大学等において、	■ 世田谷PF形成大学の知		■ 共同学生募集活動件数					9件	A

2019（令和元）年度 世田谷プラットフォーム評価報告書

<p>共同のニーズ調査や高校訪問、説明会、広報（Web サイトやパンフレット等）活動を行い、世田谷区で学ぶことの魅力を高めていく必要がある</p>	<p>名度を高め、世田谷で学ぶ魅力を伝えるために、共同学生募集活動を推進する</p>		2018	2019	2020	2021	2022		<p>部会を中心に着実に進められており、数値目標を達成している</p>
<p>5-6. 世田谷 PF 形成大学等において、地域課題の解決等に向けた共同のボランティア体制が整備されていない</p>	<p>■ ボランティア体制の充実</p>		<p>■ 学生ボランティア派遣件数（世田谷区「ボランティア事業」との連携）</p>					35 件	<p>数値目標が設けられておらず、取り組みが進んでいないため、調整が必要である。世田谷ボランティア協会がプラットフォームとして機能しているため見直しが必要と思われる。</p>
			2018	2019	2020	2021	2022		
			検討	試行	実施				

2019年度 世田谷プラットフォーム 年度末データ集

0. 基本データ（各年度5月1日現在の数値）

0-1 保証人も世田谷区在住の学生（保証人住所が世田谷区）

大学名	性別	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
国士舘大学	男性	165	244	244	308	312
	女性	60	86	88	120	114
	計	225	330	332	428	426
駒澤大学	男性	256	248	255	276	229
	女性	175	169	165	171	134
	計	431	417	420	447	363
昭和女子大学	男性	0	0	0	0	0
	女性	180	172	158	164	201
	計	180	172	158	164	201
成城大学	男性	151	137	144	136	124
	女性	192	186	189	191	173
	計	343	323	333	327	297
東京都市大学	男性	0	0	159	170	181
	女性	0	0	70	75	83
	計	0	0	229	245	264
東京農業大学	男性	136	141	146	144	140
	女性	122	132	122	133	162
	計	258	273	268	277	302
計	男性	708	770	948	1,034	986
	女性	729	745	792	854	867
	計	1,437	1,515	1,740	1,888	1,853

※正確な数値は2017年度より取得。2016年度以前は参考値として活用ください。

0-2 保証人が世田谷区外で世田谷区在住の学生（≒人口の流入者数）

大学名	性別	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
国士舘大学	男性	596	869	878	746	685
	女性	248	338	353	212	194
	計	844	1,207	1,231	958	879
駒澤大学	男性	1,923	1,985	2,055	1,979	1,808
	女性	701	735	797	818	789
	計	2,624	2,720	2,852	2,797	2,597
昭和女子大学	男性	0	0	0	0	0
	女性	513	564	615	562	689
	計	513	564	615	562	689
成城大学	男性	257	235	218	204	144
	女性	245	243	226	206	154
	計	502	478	444	410	298
東京都市大学	男性	0	0	450	432	435
	女性	0	0	81	84	89
	計	0	0	531	516	524
東京農業大学	男性	1,760	1,700	1,603	1,454	1,425
	女性	886	866	844	804	791
	計	2,646	2,566	2,447	2,258	2,216
計	男性	4,536	4,789	5,204	4,815	4,497
	女性	2,593	2,746	2,916	2,686	2,706
	計	7,129	7,535	8,120	7,501	7,203

※正確な数値は2017年度より取得。2016年度以前は参考値として活用ください。

2019年度 世田谷プラットフォーム 年度末データ集

1. 文化・芸術・教育関係 指標

1-1-1 公開講座実施数

大学名	形態	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
国土館大学	自大学	178	145	93	102	92
	世田谷PF	0	0	0	0	0
駒澤大学	自大学	17	16	15	24	37
	世田谷PF	0	0	0	7	4
昭和女子大学	自大学	17	17	16	21	22
	世田谷PF	0	0	0	1	0
成城大学	自大学	41	44	48	53	53
	世田谷PF	0	0	1	0	2
東京都市大学	自大学	10	31	17	3	49
	世田谷PF	0	0	0	3	8
東京農業大学	自大学	125	121	117	97	98
	世田谷PF	0	0	0	0	0
計	各大学	388	374	306	300	351
	世田谷PF	0	0	1	11	14

1-1-2 eラーニング(せたがやeカレッジ含む)による講座提供件数

大学名	形態	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
国土館大学	自大学	0	0	0	0	1
駒澤大学	自大学	3	2	2	3	2
昭和女子大学	自大学	1	1	1	3	5
成城大学	自大学	0	0	0	1	3
東京都市大学	自大学	2	1	0	3	4
東京農業大学	自大学	0	0	0	0	9
計	各大学	6	4	3	10	24

1-2-1 世田谷区内小・中学校等への教育活動支援学校数(出前講座含む)

大学名	形態	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
国土館大学	自大学	3	4	10	10	4
駒澤大学	自大学	6	6	14	10	7
昭和女子大学	自大学	16	12	29	15	11
成城大学	自大学	2	3	2	3	2
東京都市大学	自大学	2	1	9	8	1
東京農業大学	自大学	1	2	4	3	0
計	各大学	30	28	68	49	25

2019年度 世田谷プラットフォーム 年度末データ集

1-2-2 学生ボランティアによる区立小・中学校等への教育活動支援派遣者数

大学名	形態	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
国土館大学	自大学	0	0	0	9	5
駒澤大学	自大学	11	5	12	11	5
昭和女子大学	自大学	34	28	54	32	44
成城大学	自大学	4	2	4	2	2
東京都市大学	自大学	3	0	5	2	15
東京農業大学	自大学	0	23	15	14	10
計	各大学	52	58	90	70	81

1-3 乳幼児及び保護者向けの支援活動及びその活動を啓発する為の講習会等の実施件数

大学名	形態	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
国土館大学	自大学	0	0	0	0	0
	世田谷PF	—	—	0	0	0
駒澤大学	自大学	0	0	0	0	0
	世田谷PF	—	—	0	0	0
昭和女子大学	自大学	2	3	4	6	6
	世田谷PF	—	—	0	0	0
成城大学	自大学	0	0	0	0	0
	世田谷PF	—	—	0	0	0
東京都市大学	自大学	0	0	5	3	10
	世田谷PF	—	—	1	1	4
東京農業大学	自大学	0	0	0	0	0
	世田谷PF	—	—	0	0	0
計	各大学	2	3	9	9	16
	世田谷PF	—	—	1	1	4

1-4 障がい者支援活動及びその活動を啓発する為の講習会等の実施件数

大学名	形態	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
国土館大学	自大学	0	0	0	0	0
	世田谷PF	—	—	0	0	0
駒澤大学	自大学	2	2	1	1	1
	世田谷PF	—	—	0	0	0
昭和女子大学	自大学	3	3	8	10	2
	世田谷PF	—	—	0	0	0
成城大学	自大学	0	0	0	0	0
	世田谷PF	—	—	0	0	0
東京都市大学	自大学	1	1	2	0	0
	世田谷PF	—	—	1	2	0
東京農業大学	自大学	1	1	1	1	1
	世田谷PF	—	—	0	0	0
計	各大学	7	7	12	12	4
	世田谷PF	—	—	1	2	0

2019年度 世田谷プラットフォーム 年度末データ集

2. 地域活性 指標

2-1 地域振興・交流イベントの開催・協力件数

大学名	形態	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
国土館大学	主催(自大学)			2	2	1
	共催(自大学)	0	0		1	1
	協力等(自大学)	0	0	5	5	2
	計(自大学)	0	0	7	8	4
	主催(世田谷PF)	—	—	—	0	0
	共催(世田谷PF)	—	—	—	0	0
	協力等(世田谷PF)	—	—	—	0	0
	計(世田谷PF)	—	—	—	0	0
駒澤大学	主催(自大学)	34	31	32	28	5
	共催(自大学)				0	2
	協力等(自大学)	15	15	17	20	48
	計(自大学)	49	46	49	48	55
	主催(世田谷PF)	—	—	—	0	1
	共催(世田谷PF)	—	—	—	0	1
	協力等(世田谷PF)	—	—	—	3	0
	計(世田谷PF)	0	0	0	3	2
昭和女子大学	主催(自大学)	1	1	1	2	1
	共催(自大学)	10	13	12	11	5
	協力等(自大学)	1	1	1	1	2
	計(自大学)	12	15	14	14	8
	主催(世田谷PF)	—	—	—	0	0
	共催(世田谷PF)	—	—	—	0	0
	協力等(世田谷PF)	—	—	—	0	0
	計(世田谷PF)	0	0	0	0	0
成城大学	主催(自大学)	4	4	4	4	3
	共催(自大学)	4	4	3	3	0
	協力等(自大学)	0	0	0	0	0
	計(自大学)	8	8	7	7	3
	主催(世田谷PF)	—	—	—	0	0
	共催(世田谷PF)	—	—	—	0	1
	協力等(世田谷PF)	—	—	—	0	2
	計(世田谷PF)	0	0	0	0	3
東京都市大学	主催(自大学)	0	0	0	0	21
	共催(自大学)				1	14
	協力等(自大学)	4	4	8	4	33
	計(自大学)	4	4	8	5	68
	主催(世田谷PF)	—	—	—	—	3
	共催(世田谷PF)	—	—	—	—	0
	協力等(世田谷PF)	—	—	—	—	12
	計(世田谷PF)	0	0	0	0	15
東京農業大学	主催(自大学)	0	0	2	2	0
	共催(自大学)				0	0
	協力等(自大学)	0	0	0	3	0
	計(自大学)	0	0	2	5	0
	主催(世田谷PF)	—	—	—	0	0
	共催(世田谷PF)	—	—	—	0	0
	協力等(世田谷PF)	—	—	—	0	0
	計(世田谷PF)	0	0	0	0	0
計(自大学)	主催(自大学)	39	36	41	38	31
	共催(自大学)	14	17	15	16	22
	協力等(自大学)	20	20	31	33	85
	合計(自大学)	73	73	87	87	138
計(世田谷PF)	主催(世田谷PF)	—	—	—	0	4
	共催(世田谷PF)	—	—	—	0	2
	協力等(世田谷PF)	—	—	—	3	14
	合計(世田谷PF)	—	—	—	3	20

2019年度 世田谷プラットフォーム 年度末データ集

2-2 防災教育の参加者数

大学名	形態	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
国土館大学	自大学	3,760	3,760	3,985	3,187	4,960
駒澤大学	自大学	11	11	11	26	25
昭和女子大学	自大学	4,341	4,716	5,118	5,120	5,104
成城大学	自大学	1,934	2,141	2,157	2,322	34
東京都市大学	自大学	4,760	4,635	4,657	4,740	0
東京農業大学	自大学	2,191	2,186	2,117	2,149	3,891
計	各大学	16,997	17,449	18,045	17,544	14,014

3. 産業 指標

3-1-1 区内産業界へのインターンシップ参加者数

大学名	性別	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
国土館大学	男性	3	4	6	7	8
	女性	9	5	3	4	3
	計	12	9	9	11	11
駒澤大学	男性	23	24	29	15	19
	女性	21	19	16	13	12
	計	44	43	45	28	31
昭和女子大学	男性	0	0	0	0	0
	女性	45	48	69	39	48
	計	45	48	69	39	48
成城大学	男性	0	0	1	1	2
	女性	3	2	2	1	0
	計	3	2	3	2	2
東京都市大学	男性	9	11	9	7	8
	女性	3	0	1	2	5
	計	12	11	10	9	13
東京農業大学	男性	0	0	0	0	0
	女性	0	1	0	4	0
	計	0	1	0	4	0
計	男性	35	39	45	30	37
	女性	81	75	91	63	68
	計	116	114	136	93	105

2019年度 世田谷プラットフォーム 年度末データ集

3-1-2 世田谷区内の企業等への就業者数

大学名	性別	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
国士舘大学	男性	18	17	31	26	23
	女性	11	12	7	11	17
	計	29	29	38	37	40
駒澤大学	男性	11	24	17	25	20
	女性	18	11	29	23	23
	計	29	35	46	48	43
昭和女子大学	男性	0	0	0	0	0
	女性	34	45	27	28	21
	計	34	45	27	28	21
成城大学	男性	7	3	8	8	5
	女性	5	6	5	5	6
	計	12	9	13	13	11
東京都市大学	男性	25	12	17	18	23
	女性	7	6	11	14	20
	計	32	18	28	32	43
東京農業大学	男性	28	14	23	23	15
	女性	18	21	20	22	21
	計	46	35	43	45	36
計	男性	89	70	96	100	86
	女性	93	101	99	103	108
	計	182	171	195	203	194

3-2 社会人向け教育プログラム数

大学名	形態	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
国士舘大学	自大学	0	0	0	0	0
	世田谷PF	—	—	—	0	0
駒澤大学	自大学	10	9	10	8	8
	世田谷PF	—	—	—	0	0
昭和女子大学	自大学	4	4	5	6	4
	世田谷PF	—	—	—	0	0
成城大学	自大学	0	0	0	0	0
	世田谷PF	—	—	—	0	0
東京都市大学	自大学	1	2	1	1	19
	世田谷PF	—	—	—	—	1
東京農業大学	自大学	0	0	0	0	0
	世田谷PF	—	—	—	0	0
計	各大学	15	15	16	15	31
	世田谷PF	—	—	—	—	—

3-3 産業イベント開催・協力件数

大学名	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
国士舘大学	2	2	2	2	2
駒澤大学	0	0	0	1	1
昭和女子大学	0	0	1	1	1
成城大学	0	0	1	1	3
東京都市大学	0	0	1	1	3
東京農業大学	0	0	0	0	0
計	2	2	5	6	10

3-4 創業機運醸成のためのイベント等開催数

大学名	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
国士舘大学	—	—	—	—	0
駒澤大学	—	—	—	—	7
昭和女子大学	—	—	—	—	0
成城大学	—	—	—	—	0
東京都市大学	—	—	—	—	1
東京農業大学	—	—	—	—	0
計	—	—	—	—	8

2019年度 世田谷プラットフォーム 年度末データ集

4. 国際化 指標

4-1 国際イベント開催・協力件数

大学名	形態	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
国土館大学	自大学	2	2	2	2	2
	世田谷PF	—	—	—	—	—
駒澤大学	自大学	4	10	22	14	11
	世田谷PF	—	—	—	0	0
昭和女子大学	自大学	4	10	14	6	6
	世田谷PF	—	—	—	0	0
成城大学	自大学	1	1	1	1	0
	世田谷PF	—	—	—	0	4
東京都市大学	自大学	0	0	0	1	5
	世田谷PF	—	—	—	—	1
東京農業大学	自大学	5	6	3	4	4
	世田谷PF	—	—	—	0	0
計	各大学	16	29	42	28	28
	世田谷PF	—	—	—	—	5

5. 区内大学の連携 指標

5-1 共同FD・SD開催件数(自大学が会場校の件数を記入ください)

大学名	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
国土館大学	0	1	1	1	1
駒澤大学	0	0	0	0	2
昭和女子大学	0	0	0	0	0
成城大学	0	0	0	1	0
東京都市大学	0	0	0	1	1
東京農業大学	0	0	0	0	0
計	0	1	1	3	4

5-2 共同の単位互換科目数(自大学提供科目数を記入ください)

大学名	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
国土館大学	0	0	0	0	0
駒澤大学	189	194	182	187	198
昭和女子大学	5	5	1	1	1
成城大学	0	0	0	0	0
東京都市大学	67	68	69	60	64
東京農業大学	0	0	0	0	0
計	261	267	252	248	263

5-3 共同利用が可能な施設・設備登録数(自大学提供の施設・設備登録数を記入ください)

大学名	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
国土館大学	0	0	0	207	207
駒澤大学	1	1	1	223	223
昭和女子大学	1	1	1	1	1
成城大学	0	0	0	108	109
東京都市大学	0	0	1	68	94
東京農業大学	1	1	1	1	1
計	3	3	4	608	635

5-4 世田谷プラットフォーム参加校数

大学名	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
計	—	—	6	6	6

2019年度 世田谷プラットフォーム 年度末データ集

5-5 共同学生募集活動件数

大学名	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
国士舘大学	0	0	0	1	1
駒澤大学	0	0	3	4	3
昭和女子大学	0	0	1	1	1
成城大学	0	0	0	1	1
東京都市大学	0	0	3	2	2
東京農業大学	0	0	0	0	1
計	0	0	7	9	9

5-6 世田谷区「ボランティア事業」への学生ボランティア派遣件数

大学名	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
国士舘大学	—	—	—	—	—
駒澤大学	—	—	—	—	—
昭和女子大学	—	—	—	—	35
成城大学	—	—	—	—	—
東京都市大学	—	—	—	—	—
東京農業大学	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	35